

【多摩丘陵・私の出会った生き物たち 30】

＜雨の夜の訪問者＞

桑原紀子

ある雨の夏の夜、玄関のドアを開けると、少し離れた所に黒い塊がありました。猫が何か捕ってきたのかと懐中電灯で照らして、びっくりしました。

庭では見かけたことのない大きなヒキガエルが、両手をついてこちらをじっとうかがっているのです。どこから来たのか、雨に濡れて、もうすぐ玄関のドアをノックしそうな風情です。近づくとヒキガエルは向きを変え、意外に素早く玄関脇の物置の下の隙間に潜りこんで行きました。

池がないのにいいのかなと思いましたが、本人が引越しの挨拶に来たのだから、私は認めることにしました。

秋になり、日中でも時々庭で見かけるようになりました。ある時は木イチゴの茂みの下にじっとしているので、写真でも撮ってあげようとカメラを取りに戻ったら、もういません。ある時は少し離れた水道の辺りにうずくまっています。猫に見つかったら大変なので見守っていると、素早く移動します。ヒキガエルの移動の仕方は、蛙跳びではなくウォーキングです。灰褐色の背中、目から足や腹部にかけて太い白線模様が切れ切れに入り、じっとしていると見えても神出鬼没です。

ヒキガエルは物置の下の隙間が気に入ったようで、この分だと長期滞在、冬眠もするかもしれません。図鑑で見ると、近畿以西にいるのは日本ヒキガエル、近畿以东のは東（アズマ）ヒキガエルとのこ

とで、正体も判明しました。

9月、西緑地の作業の後みんなでお茶を飲んでいると、どこからかのっそりヒキガエルが登場しまし

た。たちまちみんなの注目を浴びながら、やがて積んである木の間に姿を消しました。我が家のと大きさも色合いも似ています。兄弟姉妹かな？

「福の神といわれているよ」「子どもの頃庭にいたのを間違えて踏んづけた」など話が弾みます。ヒキガエルは人間の暮らしの近くにいる生き物のようです。絵本や昔話にも度々登場するのは、それだけ人々に親しまれているからでしょう。

毎年3月になると、春の目

覚めのようなヒキガエルの恋が始まります。山間の小さな池に集まった雄は「クックツ」とくぐもった優しい声で雌を誘います。細長い紐状の寒天質に包まれた黒い卵たちは、やがて小さな黒いオタマジャクシになります。それが庭のヒキガエルの大きさにまで育つには一体何年かかるのでしょうか？ここまで育つのはほんの数匹の幸運者に違いありません。我が家のと西緑地のヒキガエルのルーツの池はどこにあるのでしょうか。

ヒキガエルは口から水を飲まず、腹の皮膚から吸水することですが、いつか小さな池を作って早春の優しいラブコールを聞いてみたいと思うこの頃です。

